藤女子大学
藤女子短期大学

No. 18

図書館だより

'83. 12

目　次

韓国の博物館見学記
中山周三……1
ブックディテクション雑感
家郷隆文……2
資料紹介……3
図書館利用アンケート調査
結果報告……4～9
ほんとわたしと
旅は道づれ
石井智美……10
ぶらうじんぐる～む
ブックディテクションの
印象
横田和代……11
NEWS……12

韓国の博物館見学記

中山　周三（国文学）

九月中旬、試験期間の時間をやりくりして、韓国遺蹟のツアーに参加した。藤村先生もご一緒されたのは、心強かった。

慶州では、地元の学者李信雨氏が附添い、流暢な日本語で平易に解説されたのは、有り難かった。先ず古墳公園では、二十余りの古墳を遺存して公園化し、一般に開放している。いずれも円墳（一部双円墳）で、手入れよく草が刈られている。木など植えるのは、不吉なこととされている点が、日本と違う。天馬塚もその中の一つで、発掘後は内部を展示室とし、王の遺骨埋葬の情況や遺品が、一覧できるようになっている。金冠も豪華であったが、白樺の皮製の障泥（馬の泥よけ）に五色の顔料で描かれた白馬には、すっかり心奪われた。いきおいよく今にも抜け出しそうな迫力が感じられる。塚名もこの天馬図に由来し、また新羅最古の絵画と言われている。博物館では、園内に東洋一と言うエミレの鐘がある。エミレとは、オモニ（母）の方言で、創建当初鐘の音色がわるいので、幼児をいけにえにしたところ、エミレと泣くように訴え、音色がよくなったと言う悲惨な話が伝えられている。地上低く吊り、上段にパイプ、下段に音洞をしつらえ、音響効果を挙げるよう工夫が凝らされている。陶製騎馬人物像や、三盞一去（酒を三杯飲んで去る）、飲尽大咲（酒を飲んで大いに笑う）などと記された十四面のさいころもめずらしかった。瑠璃盞、蓮華文の瓦、木簡など、日本とのつながりの感じられるものも多い。

慶州に二泊し、三日目は、公州（百済第二の都熊津城）で、日本生まれの武寧王陵を見学した。十年前発掘されたばかりで、今

日ではガラス一枚を隔てて内部を見ることができる。遺骨（模型）の位置によって、王の故郷北満への帰葬の思想が知られ、感慨深かった。出土の遺品二千数百点は、すべて公州博物館に収められている。王陵築造の年代を明記した買地券の銘文や、鎮獣として祀られた石熊のあどけない表情なども眼に残った。

公州から柳並木の街道を経て、百済第三の都扶余に赴く。この辺は純農村地帯で、昔ながらのやり方で、稲の刈り入れが行われている。期待の扶余博物館は修理中で落胆したが、かわりに公州から附添って案内して下さった李夕咲氏の御宅を見学させて頂く。上流階級両班（やんばん）の構えを遺した家屋で、屋内には古瓦や遺品がぎっしり収蔵され、庭には百済の国花と言われる忍冬の花が、僅かに咲き残っていた。

四日目は、水原の民俗村に立ち寄り、ソウルの景福宮や、その構内の中央博物館見学で、旅行の全日程を終え、五日目は、日本に帰る。この館は、全国的規模を持ち、特に李朝時代の物が見応えある。めぐり歩いて、京都広隆寺の弥勒そつくりの半跏思惟金銅仏に出逢ったときは、思わず異国に在る身を忘れたほどである。

見学した博物館はいずれも国立で、建物も新しく立派である。それに地域毎に特色を生かしているのには、感心させられた。こう言う点は、日本でも学ぶ必要があるだろう。

ブックディテクション雑感

家　郷　降　文（図書館長）

札幌地下鉄の券売機のところに、つぎのような掲示のあるのをご存知であろうか。「行先をあやまって購入されたキップの払い戻しは、当駅事務室でのみ行ないます」とある。私は通勤定期券なので、その前を通りすぎるごとに、その掲示が目について、この心が神経痛のように痛むのである。地下鉄に新しい改札のシステムが導入されて、人人がまだなれない頃の事である。「すすきの」で夕食（？）をしてイイ気持になって足どりも軽く、ではなく千鳥足で、券売機の前に立って、あやまって必要のない料金表示のボタンを押してしまった。あわててとなりのボタンを押したが、時すでにおそかった。まあいいや、着駅で精算してくれるであろう。などと勝手に納得して乗車した。「北24条」で下車、集札口の係員に精算を申し出た。ところが、発駅でなければ駄目だ、という。では「すすきの」に引き返す、というと、料金を出してキップを求めよ、という。そうこう問答するうちに、次第に声が高くなるし、つぎの電車で来て降りた客がもの珍らしげに立ち止まるものも出てきた。こちらはひっこみがつかなくなった。結局、駅事務室で交通局長あてに、上申書を書いて、自分のミスは棚上げにして厳重に抗議して、引きあげて帰宅した。数日後、交通局長名で、部厚い封書がとどいた。そしてあの掲示が各駅に一斉に出された。だから私にとっては、酔余に正論をはいた記念写真のようで、あれが目に入るごとに、心がひどく痛むのである。このたび本学図書館に新しいシステムが導入された。しかし、かのゲートを通る学生諸君においてはあまり異和感なく見受けられる。世は機械化時代、若い皆さんの感覚には無理なく受け入れられているように思うのだが……。一に地下鉄改札機、二に空港のゲート、三にブックディテクション、はやくこの新しいシステムに利用者の皆さんがなれて下さることを、切に希望するものである。

資料紹介

『日本屏風絵集成』

17巻・別巻1（講談社）

1979年より刊行されていた本集成が完結した。A3判の18冊は以下の通り集成されている。

第1巻　屏風絵の成立と展開
第2巻　山水画－水墨山水
第3巻　山水画－南画山水
第4巻　人物画－唐絵人物
第5巻　人物画－大和絵人物
第6巻　花鳥画－花木・花鳥
第7巻　花鳥画－四季草花
第8巻　花鳥画－花鳥・山水
第9巻　景物画－四季景物
第10巻　景物画－名所景物
第11巻　風俗画－洛中洛外
第12巻　風俗画－武家風俗
第13巻　風俗画－祭礼・歌舞伎
第14巻　風俗画－遊楽・誰カ袖
第15巻　風俗画－南蛮風俗
第16巻　走獣画－龍虎・猿猴
第17巻　近代の屏風
別　巻　屏風絵大鑑

御物を初め寺院や国内外の博物館、美術館に所蔵されている名品を網羅している。各巻にはそれぞれの研究者が調査・考察した論文が掲載されている。各流派の松や岩の描法の特色を説明していたり、源氏物語絵巻、紫式部日記絵巻、石山寺縁起絵巻、法然上人絵伝などの画中画まで言及し、初心者にも分りやすく説いている。

屏風は部屋の間仕切りや装束のため、又種々の儀式における貴人の座の背障として用いられた。古代、宮廷ではそこに描かれている絵を歌題として和歌がつくられた。和歌を晴の文学へとした紀貫之の歌は半分以上が屏風歌である。藤原道長が、娘彰子の入内に際して、花山院の御製や当時第1級の歌人である藤原公任に屏風歌を異例の依頼をするなど当時の屏風の存在は大きかった。

寝殿造りから書院造りへと転換していく過程で障子（絵）とも相俟って、可動な場を飾る調度品として可視的な効用と機能がより求められて来る。著しい例として、古来絵巻に描かれるのが普通であった物語絵や軍記物語類の絵が画題として登場してくるなど、屏風絵は鎌倉末から南北朝時代に大きな展開をしている。場の表示、場の性格づけのための適切な室礼調度品として、表現手段も様々に変化し、流派や絵師の個性が加味されてくる。俳聖として名高い与謝蕪村の「奥の細道図」屏風、近代画家の横山大観や竹久夢二の作品まで、日本美術史上、重要な位置をしめる屏風絵をまとめて眺めることが出来るのは圧巻である。風俗、歴史、文学等の研究に貴重な資料である。

先日、"最古の源氏物語絵屏風、武生（福井県）で発見－永禄年間の作品。と報道された。高さ156.5センチの六曲一双で、平面にすれば横幅が約6.8メートルになるという。今後さらに名品が発見されることを期待したい。

平安時代に生きた清少納言は、「坤元録の御屏風こそおかしうおぼゆれ。漢書の屏風は雄々しくぞ聞えたる。月次の御屏風もをかし」と評した。彼女が今日生きていたら、これだけの屏風絵について何を"をかし。と言っただろう。

図書館はあなたのもの？

—図書館利用アンケート調査報告—

図書館だより編集委員会

本年6月、利用実態の把握のため、アンケート調査を実施いたしました。この種の調査は初めてのことでもあり、設問その他に不備な点があって、十分な結果とは言えませんが、利用の概略は伺えると思います。以下、主要な項目について結果を示し、若干のコメントを加え、報告にかえさせていただきます。

1. 調査方法

対　象　来館の学生
回答方法　アンケート用紙に任意記入
調査期間　昭和58年6月13日－同30日
配布数　400
回収数　244（回収率61%、学生総数の14.4%）

内訳

	1年	2年	3年	4年	計
大学					
英文	8（64）	10（61）	19（76）	22（75）	59（276）
国文	16（72）	19（65）	30（73）	12（69）	77（279）
					136（555）
短大	1年	2年			
英文	13（113）	11（121）			24（234）
国文	22（125）	16（119）			38（244）
家政	12（178）	14（179）			26（357）
栄養	2（47）	8（70）			10（117）
保育	10（82）	0（58）			10（140）
別科	0（58）				0（58）
					108（1144）

2. 利用傾向

2－1　あなたは図書館をどれ位利用しますか？

ほとんど毎日	87人（36%）
週に1～2回	112人（46%）
1ケ月に1～2回	14人（6%）
その他	30人（12%）

2－2　図書館の利用目的は？（複数回答）

授業に関連した図書館の資料を利用するため	181人（74%）
教養、娯楽のため	125人（51%）
閲覧席を利用のため	68人（28%）
複写機を利用のため	35人（14%）
その他	14人（6%）
未記入	1人

2－3　図書館にはあなたの必要な資料が充分あると思いますか？

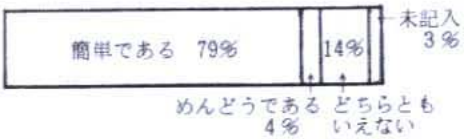
充分ある　22人(9%)
だいたいある　162人(66%)
不足している　58人(24%)未記入1人

2－4　今後、図書館に備えてほしい資料は？

授業に関連した専門図書　101人(41%)
一般教養図書　68人(28%)
趣味、娯楽図書　68人(28%)
その他　25人(10%)
未記入　4人　(複数回答)

3. 貸出システム

3－1　貸出の手続きについてどう思いますか？

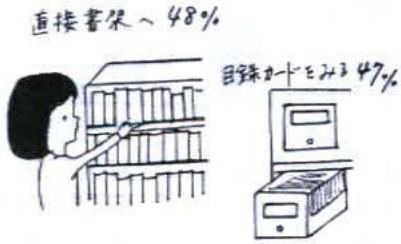


3－2　現在の図書の貸出期間についてどう思いますか？　(1週間)

3－3　現在の図書の貸出冊数についてどう思いますか？　(1－3年3冊、4年5冊)

4. 本のさがし方

4－1　本をさがす場合まずどうしますか？



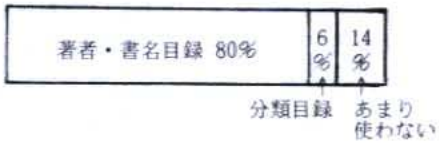
4－2　本をさがすのに困難を感ずるのはどんな時ですか？　(複数回答)

図書の並び方がわからない　33%
館内の案内図がわかりにくい　22%
カード目録の使い方がわからない　15%
困難を感じない　23%
その他　7%　未記入1%

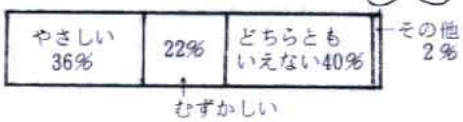
4－3　必要な本が図書館にみつからないときは？

図書館の別な本で代用する　15%
館員に聞く　36%
先生、友人に聞く　9%
書店に行く　25%
他の図書館に行く　11%
あきらめる　20%

4－4　カード目録を使う時、どの目録を使いますか？



4－5　カード目録をひくのはやさしいですか、むずかしいですか？



5. 図書館サービス

5－1　図書館で行なわれている次の事項について知っていますか？

夏休み・冬休み等の開館	82％
実習のための長期貸出	31％
卒業年次生の長期貸出	66％
一夜貸出制度	88％
試験期の開館時間延長	45％
返却ポストの設置	92％
卒業後に利用できること	46％
購入希望図書制度	70％

5－2　当館所蔵の雑誌論文を検索できる雑誌記事索引コーナーを知っていますか？

知っている

1年	16人	(83)	19％	(学年比)
2年	24	(78)	31％	
3年	25	(49)	51％	
4年	28	(34)	82％	
全体	93	(244)	38％	

( )内は総数

5－3　図書館ガイダンスを知っていますか？

知っている（毎週火曜木曜の午後実施）

1年	30人	(83)	36％	(学年比)
2年	28	(78)	36％	
3年	23	(49)	47％	
4年	25	(34)	74％	
全体	106	(244)	43％	

( )内は総数

5－4　他機関から本を借りたり複写を依頼したりすることができるのを知っていますか？

知っている

1年	37人	(83)	45％	(学年比)
2年	37	(78)	47％	
3年	30	(49)	61％	
4年	32	(34)	94％	
全体	136	(244)	56％	

( )内は総数

6. 集計結果についての分析

利用傾向

利用傾向については、ほぼ予測した通りの結果が出ました。座席まで決まっているほどの常連が少なくないことが2－1でよくわかり、図書館の利用なしに過ごせない日常であることも2－2から読みとれます。しかし、それほどまでに期待されている図書館が、利用者の要求によく応えているかというと、2－3の資料の充足度にみるように遺憾とせざるをえません。ただし、今後ほしい資料（2－4）としては、専門図書についての要望が多いのはもちろんですが、一般教養関係についての要望も多く、学生生活の中にしめる図書館の位置をよくものがたっていると思われます。

資料の不足不備を解消するひとつの方法として、購入希望図書制度を利用し、学生の皆さんもよりよい図書館づくりに参加していただきたいと思います。ちなみに今年度学生希望のうち約80％が購入されています。

貸出システム

貸出の手続き、期間、冊数についてはいずれも現状に大きな不満のないことがわかります。ただし期間については40％の不適当回答があり、後述の延滞問題に関わってきます。

貸出更新制度、予約制度の知悉度（それぞれ87％、75％）からみて、上手な利用をしていると思われますが、その一方、延滞に対する罰則を知りながら（91％）、なおかつ回答者の60％が延滞経験者であるという事実は、蔵書内容の問題とともに、やはり現行制度に問題があることも指摘できるのではないでしょうか。

冊数、期間について不適当と答えたのは大学高学年に多く、特に3年生がめだったのは一考に価します。冊数、期間の具体的な改善案については数字が小さすぎて、参考とするに足りませんでした。

本のさがし方

カード目録は高学年ほど利用も多く、困難さを感じない度合も高くなります。これは当然といえばそれまでですが、資料の効果的な利用にはカード目録という媒体が不可欠であることをよく物語っています。

和書の著者書名目録も、カードの並び方は、ヘボン式ローマ字によっていて、この点にむずかしさを訴える意見が多かったのですが、ぜひ慣れていただきたいものです。

カード目録では著者、書名目録の利用が圧倒的で、分類目録など無きに等しい結果が出ていますが、（4－4）、今後の目録の在り方に大きな示唆を与えています。

当館は雑誌を含めて全接架の閲覧方法をとっていて、利用者には一般に好評のようですが、資料をさがす点では、利用者に負担がかかることも事実です。今回の調査にはそれがはっきり表われていると思われます。

4－2で資料さがしに困難を感じないが僅か23%で学年に関係なく多くの利用者が何らかの困難を感じています。これはタコ足猫の目排架で、資料の位置が必らずしもわかりやすくはないこと、全接架なるが故に、カード目録の利用を忘れてしまう点に原因がもとめられるでしょう。

必要な資料がみつからない場合（4－3）、館員に聞くというのが36%をしめしているのは、信頼度の表われとしてうれしいのですが、その一方、あきらめるというのが20%もあるのは残念なことです。図書館の利用について、資料について、わからないこと、困ったことはまず図書館員にたずねてほしいのです。

図書館サービス

全体的な印象としては、図書館のいろいろなサービスを利用者はよく知っているといえます。

特に4年生は必要にせまられてのことでしょうが、積極的な姿勢がめだちます。

5－2雑誌記事索引コーナーの所在については全体では40%弱とそれほど多くはないのですが、4年生は80%をこえています。雑誌の利用は最近著しい増加を示していて、このコーナーの利用が卒論、レポート作成上、不可欠となっているのでしょう。所蔵雑誌を対象とした当館オリジナルの索引のあることが、大きな魅力となっていると思われます。

調査案内カウンターで行なっているサービスについても、4年生の殆んどがよく知っており、かつ有効に利用しているようです。

図書館の利用案内として、入試時のオリエンテーションと、毎週希望者に行なうガイダンスとがあります。オリエンテーションについては概ね好評を得ていますが、それはそれとして、日常の利用のためにはぜひガイダンスを受けてほしいと思います。

7. 図書館への要望 ―― 主なものをあげ、現状について説明を加えました。

館内の騒音

館内でのおしゃべりがうるさく、勉強の邪魔になるという声が多く聞かれました。図書館は共通の利用の場です。他の利用者の迷惑にならないようご協力下さい。

グループで話し合いながら勉強をしたいときは、なるべく館外で行って下さい。館内にゼミ室があれば良いのですが、現在は資料にふさがれてスペースがありません。

新刊雑誌の遅着

新刊雑誌コーナーへの展示が遅いとの指摘がありました。図書館では書店より納入された雑誌はできるだけ早く受け入れ、新刊雑誌コーナーに展示するようにしていますが、寄贈されるものもあり受け入れ状態が一様ではありません。ご了承下さい。

洋書の語学関係を接架にして欲しい、料理関係の本と外国文学の図書を同室に置かないで欲しいなど図書の配置の問題について

本館には年間約8,000冊の図書が入ってきます。この増加量にみあうように書架を増やしていかなければなりませんが、このスペースが図書館内に現在殆どありません。つまり満杯、パンク寸前なのです。館員も頭を悩ませながら資料を小移動しては息を継いでいます。せっかく覚えた配置が一夜にして変っているので大変不便、との指摘もあり、館としても非常に心苦しいのですが、どうぞその点ご理解下さい。

昼休み、16時30分以降の貸出取扱いをして欲しい

昼休みについては今年8月末より貸出を実施しております。ご利用下さい。また、土曜日は従来14時まででしたが15時30分まで延長しています。

指定図書・参考図書などの一夜貸出しの返却時間をもっと遅くして欲しい

一夜貸出資料は現在16時から貸し出し、翌朝の10時までに返却することになっています。これは昭和56年12月より実施されたもので以前は9時まででしたが、皆さんからの要望により1時間延長されたのです。参考図書、指定図書などは常備資料としての性質上開館中は利用に支障がないよう、返却時間10時というのはぎりぎりの線と思われます。

複写機の増設、紙のサイズを増やして

複写機は昭和55年にセルフサービスのコイン式になってから年々利用が増えています。昭和57年には皆さんの要望により2台に増え、混雑はずいぶん緩和されました。しかし、試験期などで休みなく使用しますとどうしてもオーバーヒートしてしまいます。故障の際には別の複写機が使えるように配慮しております。皆さんも混雑する時期は時間を見計らって行なうなどご協力下さい。午前中、3時過ぎなどが比較的すいているように見受けられます。

また、紙のサイズについては現在B4のみですが、コイン式のためサイズによって料金を変えることは現在の機種では不可能ですのでご了承下さい。

休暇中の開館日数を増やして欲しい

今年度の夏期休日開館はブックディテクション導入準備のため3日間だけでしたので、大変ご迷惑をおかけしました。例年休館日は館規定により夏季・冬季休暇中の2週間、春季休業中の3週間と定まっております。館員は休館中も蔵書点検・資料移動など、日常短時間ではできない作業を集中的に行っています。図書館をスムーズに運営するためにはこのような休館日がどうしても必要なことをご理解下さい。

8. 図書館だよりについて

図書館だよりで特に関心が持たれている記事としては、先生方のページ32%、特集記事21%、資料紹介20%などです。学生のページも11%の方が関心を持って読んでいました。

図書館だよりについての感想では「おもしろい」「役に立つ」合せて70%あり、うれしい結果がでました。

今後への要望としては、新刊本の書評・読書

案内、先生・学生の愛読書紹介、卒論特集（先生・学生の卒論体験談など）、新着図書紹介などが内容に関する具体的なものとしてあげられました。また、ページ数・発行回数の増、写真や色刷復活を希望する声もありましたが、写真・色刷については17号より学内印刷で発行していますので現在のところむずかしくなっています。これら、皆さんのご意見を今後の図書館だよりにとり入れていきたいと考えております。ご期待下さい。

おわりに

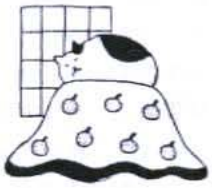
以上、アンケートの集計結果をお知らせいたしました。ご協力ありがとうございました。なお、分析につきましては館内からの協力を得ました。

本館は全国平均からみましても非常に利用の多い図書館です。統計的にみますと昭和57年度学生貸出総冊数は 22,487冊、1日平均貸出冊数は172冊、試験期、レポート提出期になりますと、1日の貸出冊数が300冊を越えたことも稀ではありません。学生1人あたり1年間に平均13冊借りたことになります。また、今年度の貸出登録者数は11月末現在で全学生の84%に達しています。

しかし図書館で行なっている様々のサービスの中には、皆さんにあまり浸透していないものも見受けられます。図書館を有効に利用するためにも、もっと図書館で行なわれているサービスについて関心を持ち、使いこなしていただきたいというのが館員の願いです。

このアンケートは全学生1700人のうちの14.4%の声にしかすぎませんが、多少でも学生の皆さんが図書館をどのように利用し、どのようにみているかを知ることができたように思われます。

この結果を今後の図書館運営に役立てていきたいと思います。よりよい図書館として進んで行くために、利用者の皆さんもご協力をお願いいたします。



"他館の直接利用について。

皆さんは図書館で男子学生が資料を山積みにして利用しているのを見かけて驚いたことはありませんか？女子大なのに！……。　本館でも最近は他大学の学生や教職員の利用がよく見られるようになってきました。資料が充実してきたのと、全接架制で使いやすいということが知られてきた為でしょうか。

図書館と図書館との間で資料を貸し借りしたり、複写で提供したりすることを相互協力と言っています。この中に利用者が直接来館する直接利用も含まれます。

市立図書館のような公共図書館は、身分証明書を提示し、所定の手続きをすると"個人"として利用することができます。既に利用している方も多いことでしょう。

大学図書館や研究機関の図書館の場合には、館長の証認印のある利用依頼書が必要になります。利用依頼書を持参すると閲覧・複写などの利用をさせてもらうことができます。但し、利用資料の所蔵確認と、受入館の許可が得られた場合に限られます。参考図書コーナー、調査・案内カウンター内に各機関の蔵書目録が集められておりますので、所蔵を確認できる館もあります。

利用希望の方は、調査案内カウンターまでお申し込み下さい。所蔵館の調査・照会・申込の手続を行っております。

昭和57年度の利用状況は、依頼54名、来館67名でした。

ほんとわたしと

旅の道づれ

石井　智美（食堂）

旅に出る度に、「重いかな、でも」と相棒気分で荷物の中に、本をつめ込む私がいる。

身軽な旅でも本はいつも大きな顔をして、私のリックの背中で揺られたり、バックにつめ込まれたり、果てはヨーロッパまで出掛けてしまったりしている。

旅の徒然に本が要るのか、本があるから旅に出るのかは、物書きさんに任せても、私にとって確かなことはどこに居ても、本のない生活は不可能と言うこと。本は日常に居ながらにして思考させ、未知なる世界への飛翔を可能にし、相乗効果の如く、私を道祖神の招きに応じさせたりしてしまうのです。

今年の夏のヨーロッパ旅行の荷物の中には「堕落論」。今にすれば気負ったかな？と言うくすぐったい気分ですが、かの本で理論武装？しつつ一歩、タラップを降りれば、そこは私にとって遥かなる国。辻邦生がパリに空路降りたった時も……と、日本語で想いをめぐらしていたのです。夢も日本語で結んでいる訳で、その意識を司るのは、全て日本語で解している事象であって、ダンテもゲーテも、日本語訳を通して知り得たものであったことを、旅の空で想いめぐらすうちに改めて、本の媒介する文化性と、その存在の偉大さを痛感した次第でした。また母国語である日本語訳のワンクッションの現実も、頼もしくも、少しばかり語学能力と思い照して嘆息してしまったのでした。旅行中は全て、見るもの聞くもの、百聞は一見にしかずで、感激の連続でしたが、本物の持つ静かな迫力にはあらゆる場面で圧倒されました。美術全集の世界が今ここにあると思ったルーブルでの、感激、作品の前では無心になることしか出来ないながら、その作品背後を支える精神を、読書なりで少しでもかじって行ったなら、感性に対し実物は雄弁だった気がします。忘れられない想い出をたくさん抱いての帰途、辞書と仲良くなるしかないと思いつつ買ってきた本の中で、日本の雑誌気分で求めた「la・maison」の最後のページに、難民キャンプにて、義足をつけて歩き出している少年の姿と、難民への募金、ボランティア募集のＰＲがのっていました。

出版社の姿勢でしょうが、この様な方法で、現実が伝えられると共に問題提起がなされ、それぞれ、一市民、一個人の資格で思考されてゆくボランティア精神に、いい意味での大人の良識を感じると共に、この国の根底に流れている精神を垣間見た気がしました。そしてこのことを、当然としてではなく、すごいことだ、と感じてしまった私はやはり「遠い国から来た黄色い人」なんだろうか、と考えこんでしまったのです。何気ない雑誌の１ページから、私の脳裡を様々な想いが横切ってゆきました。

本と言うものは、行間の空白さえも語るところあり、と言われるように、余すところなく一度読み手の側に渡ったならば、その読み手がページをめくり、その本の持つ世界の扉を叩たこうとしたのならば、その読み手の読み方、感じ方、精神の在り様で、最後の１ページに到るまで、様々な宝物を見せてくれるものであることを、改めて感じています。さて、そこからどんな思考、考えることが始まるかが、知ることの愉しみと共に読み手に問われることと言えそうな気がします。

（カットも石井さんです）

ぶらうじんぐるーむ

ブッディテクションの印象

横田　和代（文学部国文学科３年）

システム化の告知板を最初に見た時は、電子工学だのコンピュータだのと、ひょっとしてパルコのブックスペースみたいに派手になってしまうのでは、と心配した。

いわゆる図書館というもの、というより書物の層そのものに感じるちょっと神秘的な感情に対して、＜最新システム＞の言葉はかみ合わず、何だか幻滅させられる。（然しこれは発想が女学生的過ぎた。）

図書館側では管理化という点を少なからず懸念していたらしいが、学生側の反応はまず、常識的立場から図書紛失（盗難？）の事実にビックリしたわけで、だからむしろ積極的にその＜管理化＞を支持した方なので批難の声は聞かなかった。

さて夏休みあけ、期待してドアを開けるなり長年見慣れたカウンターが綺麗に片づけられたのがいかにも間の抜けたその先に、たったの２本の鉄棒が装置然として構えている。中に入ってひととおり見てまわってから、件の＜最新システム＞が駆使されているのが疑いなく出入口のみである、と分って、苦笑した。その他は以前と変わらず、ドギマギする必要もない。空いたロッカーを探す手間が省けたことで、目指す書架の所まで一目散に行けるのは、急ぎの時やまれに勉強に夢中になっている時に限らなくとも、やはりとても便利に思う。この頃は関所の通過にも慣れたもので、おなかで棒をギリリと押しながら、スタスタ入って行ってしまう。それにしても未だに退館の際に多少、内心平静さを欠くようなところがある。時折耳にするあの警報は他人事でもビクッとして嫌だが、たとえ万全の自信をもって及んでも精巧なコンピュータが意外なものに反応してわめきたてる恐れがあり、もし被害を受けた場合、道路で転ぶのと同じできまり悪さをどこへ向けたらいいのか、相手はコンピュータだしね。もしかの場合は、別にどうってことないよという顔して対処しょう。

延滞について

最近、資料を期日までに返却しない方が増えております。アンケートの結果でも約60％の方が延滞をしたことがあると答えています。延滞をすると他の利用者の迷惑になるばかりか、延滞料金の徴収や貸出停止などの措置もとられます。期日までに読みきれない資料は、予約者がいない限り何回でも貸出を更新することができますので、本をご持参の上、手続きして下さい。延滞をすると、更新ができませんのでご注意下さい。

なお急病などやむをえない事情で返却が遅れる場合には、なるべく期限内に係までご連絡下さい。電話でもけっこうです。場合により考慮いたします。

図書館に勤めて……

小杉ゆう子（貸出カウンター担当）

学生時代には、司書という仕事に憧れながらも、まさか自分が図書館で働くことになろうとは思ったこともなかった。それが早いもので私がこの図書館の職員になってもうすぐ一年になろうとしている。ここで仕事をしながら、どこに行くとどういう本があるのか、それぞれの本や雑誌にどのような事が載っているのか、何かについて調べたい時に、どのようなものから見てゆけば良いのかが少しずつわかってきた。

学生だった頃は、授業に関係がある、ほんの一部の本をつついていた程度の私なので、卒業してしまってから、ようやく図書館を使うことの楽しさを覚えたような気がする。働き始めてから今までの間にも、感銘をうけた本に数冊めぐり会うことができた。他の人にも図書館に使い慣れ、短い学生時代の間に、一冊でも多くの良い本に触れてもらいたいと思っている。

今は、書庫の床にへばりついてでも、目的の本を見つけて来て、これが欲しかったという人に使ってもらえる時が、最高にうれしい毎日である。

受入雑誌紹介

年々雑誌の利用が増えてきております。所蔵タイトルも現在約2800あります。

今年度新規継続となったものには（**月刊**）**カドカワ、こどもとしょかん**などがあります。

バックナンバーでは、復刻版で**美術新報、以良都女、労働農民新聞、新声、我等**（我等社）**呼子と口笛**が購入されました。有島武郎の個人雑誌、**泉**も全号揃いました。この他紀要など学術雑誌もタイトルが増え、欠号もずいぶん補充されています。

新聞架が新設されました。

文庫・新書・新聞コーナーに新しく新聞架が入りました。日刊紙についてはその月の分を置けるようになりました。扉をあけた中にバックナンバーが入っています。

冬休みの予定

例年どおり12月16日から1月14日まで休日開館となります。但し12月24日から1月7日までは休館です。詳しくは掲示板でお知らせします。

（休日開館　午前9時30分ー午後4時）

編集後記

戸外はもうすぐ銀世界、冬休みが待ち遠しいですね。旅行、アルバイト、帰省などそれぞれに楽しい計画を練っていることでしょう。図書館も休み中はあわただしさも一段落し、静かな図書館になります。じっくりと調べものをしたい方、ぜひご利用下さい。

アンケート調査報告、いかがご覧になりましたか。4回続いた編集委員会も今回で解散、新しいメンバーにバトンタッチです。

藤女子大学 藤女子短期大学　図書館だより　第18号　1983. 12. 1 発行
発行者　札幌市北区北16条西2丁目　藤女子大学図書館